

第48回 日本バイオフィードバック学会学術総会

日本カウンセリング学会・全国研修会 合同大会

招待講演

IPI 統合的心理療法研究所 顧問

平木 典子先生

これからの心理療法を考える～統合的心理療法について



入場無料

(一般の方)

■日時: 2020年6月7日(日) 15:30~17:00

■会場: 松本大学 5号館 524講義室 (長野県松本市新村2095-1)

■費用: 無料 (定員: 先着 300名様) ※合同大会へご参加の方は参加費をお願いします

■お申込み方法: 裏面の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXにてお申込みください

■お申込み・お問い合わせ

第48回日本バイオフィードバック学会学術総会事務局 (安曇野内科ストレスケアクリニック内)

〒399-8301 長野県安曇野市穂高有明 9982-7

TEL: 0263-31-3107 FAX: 0263-50-7157 E-mail: toppo108toppo@yahoo.co.jp

※診療の都合上、お問い合わせは、なるべくFAXまたはメールをご利用願います(返信のため、ご連絡先をご記入ください)

1980年代に400を超える心理療法の学派の氾濫により始まった心理療法の整理統合の動きは、単一理論による実践の限界と理論技法の効果研究によるどの理論にも共通する要因の発見などにより、学派を横断した統合への機運を高め、統合の学会 SEPI (Society for the Exploration of Psychotherapy Integration) の設立により、統合の発展・洗練が続けられている。今や、実践に寄与する視点を重視した技法的折衷、精神分析と行動療法の理論的統合をモデルとした理論的統合、共通因子による統合、一つの理論を中心にその理論に矛盾しない他の学派の見方や技法を取り入れる同化的統合などが進んでいる。

とりわけ、社会構成主義 (ポストモダニズム) の認識論の影響は、多元性と多様性を重視する見方を促進し、諸理論の共存と経済的効率を重視する理論・技法の洗練が志向され、今や心理支援の専門家と本人の専門家であるクライアント自身の協働的働きかけによる自己回復の支援は不可欠になっている。

ここでは、システムック・アプローチ (家族療法) を中心とした同化的統合モデルを例としてとりあげ、未来の心理療法を展望してみたい。

■講師紹介

平木 典子先生【ひらき のりこ】

IPI 統合的心理療法研究所 顧問

臨床心理士、家族心理士



ミネソタ大学大学院カウンセリング心理学専攻修士課程修了

立教大学カウンセラー・教授、日本女子大学人間社会学部心理学科教授、跡見学園女子大学大学院教授、統合的心理療法研究所設立・所長を経て、現職

1980年にアサーション・トレーニングの理論と技法を日本に紹介。以後、アサーションの多領域における治療とケア、教育と訓練、組織運営と開発などへの活用を推進中。

■主な著書

平木典子 『統合的介入法』 東京大学出版会

平木典子 『心理臨床スーパーヴィジョン～学派を越えた統合モデル』 金剛出版 など

お申込み用紙

下記に必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてお送りください。なお、お申込みへの返信はいたしません。当日直接会場へお越してください。

FAX 番号 0263-50-7157

事務局メールアドレス:toppo108toppo@yahoo.co.jp

お名前	ご住所	電話番号	FAX またはメールアドレス